

旅客船における
外国語も用いた避難誘導について
【参考の手引き】

総論	2
船内標識や翻訳ツールの準備	4
避難誘導手順における外国語案内の例	7
避難誘導訓練	18
さいごに	20

令和2年2月改訂

四国運輸局
海上安全環境部

総論

1. はじめに

旅客船で衝突・座礁等の非常事態が発生した際、旅客を安全に誘導することは容易なことではありません。非常事態には旅客が不安に駆られパニック状態になりかねませんので、旅客に情報を常にわかりやすく提供すること、船員が毅然とした態度で明瞭な言葉で指示を行うこと、旅客を出来るだけ小さな集団に分けて誘導すること、旅客を疲労させないこと等に注意を払うことが必要です。

避難誘導を日本語で適切に行ったとしても、説明を完全には理解出来ない外国人観光客の場合には、不安感は一層大きいものになります。このため、乗客の中に占める外国人観光客の割合が多い場合には、情報提供や指示を日本語のみならず英語（可能であれば、想定される観光客の言語にあわせて、中国語、韓国語等を追加）でも行う必要性が高くなります。

2020年は東京オリンピック・パラリンピックもあり、外国人観光客がさらに増加する見込みであり、今般、内航旅客船事業者における外国語も用いた避難誘導体制作りを後押しするため、その参考となる内容を纏めることとしました。

(1) 避難誘導手順書の作成

海上運送法に基づく安全管理規程に「事故、災害等が発生した場合の対応に関する事項」を記載する必要がありますので、内航旅客船事業者は乗客の避難誘導の準備は何等か行っていますが、避難誘導手順を文書化していないこともあるようです。

外国語も用いた避難誘導にあたっては、当該言語に堪能な船員を乗せない限り、乗客にどのように状況を説明し、どのような経路を用いて誘導し、その際に障害が生じないか否かにつき、安全統括管理者を始めとした関係者で事前に確認し、放送や会話による案内や船内標識について十分に準備しておくことが不可欠になります。

これらの準備にあたって、文書化された避難誘導手順が必要となりますので、これを作成しておくことが強く推奨されます。手順書には、誰が、何を、いつするかを明確にするため、役割分担表や想定シナリオを含めると、より使いやすいものになります。

(2) 避難誘導手順に基づく案内・標識の準備

避難誘導の方法は、日本語が不自由な外国人観光客が含まれる場合であっても、基本は変わりません。すなわち、一箇所に集めた乗客に状況を丁寧に説明し、救命胴衣を着用させ、少人数グループに分けて、グループ毎に移動を指示し、全ての乗客を他船に移乗させる又は退船させるということになります。

一方、日本語が不自由な外国人観光客の避難誘導にあたり特に気をつけるべき点は次のとおりですが、これらを放送や会話による説明、身振り手振りでの指示と案内標識の組み合わせで解決するためにどのようにすべきか検討し、手順として定めておくことが必要です。

- 状況説明を行う場所に旅客がたどり着くことができるか。
- 状況説明を過不足なく行うことができるか。(必ずしも、日本語と同じ情報量が必要なわけではなく、最低限の内容でもよい。)
- 救命胴衣を着用させることができるか。(少人数グループに分けた後、救命胴衣を着用させる方が、サポートしやすく混乱は少ない。)
- 少人数グループに分けることができるか。(日本語が不自由な人、負傷者など、配慮が必要な人毎にグループ分けしてもよい。)
- 少人数グループを個別に他船への移乗場所又は退船場所まで指示して誘導できるか。

案内標識は言語に左右されないピクトグラムや簡単な英語を併用した標識を用いることが望まれますが、常設のものに限らず、プラカード等、避難誘導の際のみに使用するタイプのものを活用することも考えられます。

また、外国語での説明は、メガホン型翻訳機やスマートフォンの翻訳アプリ（VoiceTra）のようなデバイスを利用することも考えても良いかもしれません。しかしながら、自動翻訳の精度によっては、情報が誤った内容として伝わり、外国人旅行者の不安を一層あおることになってしまったりは本末転倒の結果になってしまいます。このため、想定される説明内容について、事前に「説明文章」を作成して、その正しい翻訳をデバイスに記憶させておくことが推奨されます。

なお、移動の際には、負傷者、身体に障害がある者、老人、子供連れ、妊婦などの移動に制約がある乗客に対する配慮が必要であることは言うまでもありません。

(3) 訓練

避難誘導手順書を作成した後も、様々なシナリオの下で訓練を実施することで対処能力の向上を図ることが重要です。

図面上での訓練（いわゆる机上訓練）でも問題点を発見し、手順書を改善することができます。一方、実際に乗客役の人を船に乗せて避難誘導を行うことは、手間はかかりますけれどもより効果的な結果が期待できます。可能であれば日本語が不自由な人（留学生等）に参加してもらうことが望ましいのですが、このような大がかりな訓練は、行政機関も含めた合同訓練などの機会を活用することも考えられます。

船内標識や翻訳ツールの準備

1. 船内表示

(1) 非常標識・非常用掲示札

非常標識・非常用掲示札については、船舶設備規程第二百二十二条の五及び第二百二十二条の七の規定に従ったものを備え付けてください。

また、英語の訳文を付すことが要求されるのは国際航海に従事する旅客船だけですが、外国人観光客が多く利用する旅客船にあつては、英語の訳文を付すことが望まれます。

(2) 救命設備の表示

救命設備の表示については、船舶救命設備規則第九十七条及び第九十八条の規定に従ってください。救命設備の積付場所等について、シンボルによって表示する方法が定められています。

(3) 周知事項

旅客の安全を害するおそれのある禁止行為、運送約款で定める禁止行為、救命胴衣の着用方法、緊急時における避難要領等、乗客が遵守すべき事項等について、船内表示により周知をしてください。

また、特に重要なこと（危険物の持込禁止、火気の使用禁止等）については、言語によらず目でみてわかるピクトグラムを活用したり、日本語に加えて英語（可能であれば、想定される観光客の言語にあわせて、中国語・韓国語等を追加）でも表示することが望まれます。

法令や標準で定められていないピクトグラムを用いる場合には、わかりやすく、他の内容に誤解されないよう注意してください。

(4) その他

規則では要求されていませんが、エレベーター、エスカレーター、トイレ等の場所について、外国人観光客にとっても分かりやすく表示することが望まれます。

また、個別の表示を、英語もしくはピクトグラムにすることが難しい場合もあるかもしれません。そうした場合、外国人観光客が相談できる窓口や船内インターホン等を用意して、その場所を英語で目立つように表示し、何かあればそこに相談してもらうというのも一つの手です。

2. 船内放送等

(1) 船内放送

標識や表示は、その場所で表示を見ないと意味をなしませんが、船内放送は、船内のどこにいても情報伝達できるツールです。標識や表示に記載していることであっても、特に重要なことについては、船内放送でも伝達することが望まれます。

また、外国人観光客が多く利用する旅客船にあつては、日本語に加えて英語（可能であれば、想定される観光客の言語にあわせて、中国語・韓国語等を追加）で放送ができれば、外国人観光

客にとっての利便性・安心感が大きく高まると考えられます。

なお、日本語についても、簡潔で、シンプルな言葉で放送することが、特に緊急時の放送においては求められます。

2019年に実施した避難誘導訓練では、船内放送が聞こえなかったという参加者の意見がありました。緊急時には、乗客もごわつきますし、放送機材が不調となる可能性もありますので、バックアップ用のメガホンを用意するなど、確実に放送内容を伝えるための備えが必要です。

(2) 客室乗務員

売店等の客室乗務員は、売店業務がメインですが、出航時に救命胴衣の着用方法等の周知事項を口頭で説明する、緊急時に乗客への周知・引率等を行う、といったように、避難誘導に関わる役割を担ってもらう方法もあります。

さらに、客室乗務員が英語（可能であれば、想定される観光客の言語にあわせて、中国語・韓国語等を追加）を話すことができれば、外国人観光客にとっての利便性・安心感が大きく高まると考えられます。

英語が不得意な方でも、通常時・緊急時に必要とされる定型文について、英語での発音をカタカナで記したメモを用意し、携行すれば、対応できるケースも増えると思われれます。そうしたメモを、自分だけでなく相手にも見せることを想定して作成したものが、後述のコミュニケーションシートです。

売店等の客室乗務員が直接会話しない場合でも、売店等に、前述の外国人観光客が相談できる窓口や船内インターホン等を設置し、実際の会話等は、専門の担当者に任せる方法もあります。

(3) 翻訳機

船員や客室乗務員が英語を話すことができるのが最善ですが、英語が得意でない方が、外国人と会話するのをサポートする機器があります。そうした機器を携行するのも一つの手です。

メガホン、スマートフォン、PDA等の機器が市販されています。

(4) コミュニケーションシート

船員や客室乗務員が英語が得意でない場合は、通常時・緊急時において、頻繁に必要とされる質問やその回答について記載した一枚紙を事前に作成しておくのも一つの手です。これをコミュニケーションシートもしくはコミュニケーションカードと呼びます。

船員がコミュニケーションシートを携行（可能であれば船内で配付）し、外国人と会話する際に、同シートを示しながら、意思疎通を図るという方法もあります。

コミュニケーションシート作成にあたっては、インターネット上の、翻訳サイト、英文をカタカナ表記に直すサイト等も参考になります。

3. 救助船

事故の状況によっては、救助船を手配して、旅客を陸上まで輸送することが必要になります。自社船で対応できるとは限らず、他社のフェリー・海上タクシー等や、海上保安庁の巡視船に頼らないといけない場合もあるかもしれません。

停泊中の本船に手配した船が接舷し、旅客が乗り移ることになりますので、両船の乾舷の高さに差があると、非常に危険です。あらかじめ、乾舷等のデータを調べ、救助船に使用できる船をリストアップしておくことが望まれます。

4. 待機場所

救助船を手配して旅客を陸上まで輸送したとしても、深夜で交通機関が運航していない場合や、地震等により交通機関が不通となっている場合など、港湾施設内もしくは救助船内などで、一定時間、待機することが必要となる場合も考えられます。

大勢が集合でき、放送が聞こえ、椅子等の旅客を疲労させない設備がある場所が、待機場所として適切です。

港湾施設内もしくは救助船内などで、一定時間、待機するために必要となる、水・食料・トイレ等の状況について、あらかじめ調べておくことが望まれます。

避難誘導手順における外国語案内の例

旅客の避難誘導手順は、外国人観光客の乗船実態や会社や旅客船の状況を踏まえて作成するものですが、参考として用いることができるように、避難誘導の手順の中での英語案内例を以下に示します。想定される観光客の言語によっては、中国語、韓国語等の案内の実施が推奨されますが、その場合、英語案内と同じ内容の文章を準備することで対応できます。

1. 手配船で旅客を移送するケース（緊急退船不要）

（船長は船橋で船内放送・外部との連絡、乗組員への指示を担当）

（1） 状況確認・旅客への状況説明

<船長> 状況確認を指示

<船員> 状況確認（乗揚げ、衝突、火災、機関故障、推進器故障等）

負傷者確認・本船の旅客数を会社に確認

状況確認結果報告

<船長> 緊急退船の必要なし・救助船必要と判断

事故発生の緊急通報（事故状況、緊急退船不要・救助船必要）

本船の現在位置及び事故状況を報告

（例）「本船、〇〇付近の浅瀬に乗揚げ、本船は船首部から僅かに浸水しています。

旅客〇〇名の救助のための船舶の手配をお願いします。」

<船長> 止水等の必要な処置を指示

客室に向かうよう指示

<船長> 案内放送

（案内放送の実施）

「お客様にお知らせ致します。本船は浅瀬に乗揚げました（※）。

船体は安定した状態にあり、危険な状況ではありません。

詳しい状況を説明しますので、落ち着いて（〇デッキの）非常招集場所（又は客室）にお集まりください。」

Attention Please.

This ship is grounded (※).

It is stable and there is no immediate danger.

For further information, please assemble at the muster station (or cabin) (on ○deck) with care.

Thank you.

(※) 旅客への説明中、事故状況の部分は以下のように変更できます。

機関故障	This ship has engine trouble
機関室火災	This ship has engine room fire
推進器損傷	This ship has propulsion trouble
衝突	This ship collides with another ship / shore / an object

(注) 案内放送では、ゆっくりとわかりやすい言葉を用い、乗客の不安をあおる言葉を避けるように心がけることが大切です。

(注) 乗客の集合場所は、状況説明ができ、かつ、少人数のグループ分けができる広さがある場所が望ましい。手配船の到着までの時間が長い場合には船内が望ましく、夜間の場合には照明が明るい場所が望ましい。

(注) 日本語が不自由な乗客にとって集合場所が分かりにくい時には、通行の邪魔にならないよう配慮しつつ、矢印やピクトグラムをプラカードや張り紙等で掲示することが望ましい。

(2) 非常招集場所（又は客室）での説明

<船長> 移乗方法の説明及び移乗準備を指示

<船員> 移乗方法の説明

「お客様にお知らせします。

本船は浅瀬へ乗揚げています。船体は安定していますが運航再開の見込みがたたないため、〇〇港に移動するための船を手配しました。

乗換え方法を説明します。

負傷された方、お体の不自由な方、高齢者・お子様連れ等、特別な手助けが必要な方とその他の方に分かれてもらい、それぞれの中で〇名ずつ纏まってください。

その後、救命胴衣を着用し、船が到着するまで待機してもらいます。

乗り換えの準備ができたなら、それぞれのグループに移動の案内をします。

貴重品は身に付けていただきますが、手荷物はここに置いて下さい。」

Attention please.

This ship is grounded. It is stable but unable to navigate for the time being, so Captain has arranged a ship to take you to 〇〇 port.

I will explain how you change the ships.

Passengers are divided into two categories, one is injured, passengers need special assistance and another is the rest. Then, please make small groups of 〇 persons in each category.

Put on a life-jacket and wait here until the ship will be arrived.

When it is ready, instruction is given to each group, individually.

Take your valuables with you but leave your baggage here.

Thank you.

(注) 少人数分けはパニック防止及び誘導の容易さを確保するために行うものです。移乗場所の広さや、誘導人員の数等を踏まえて事前にグループのサイズを決定しておいてください。

(3) グループ分けの誘導

<船員> 移乗準備

「これから小人数のグループを作ってもらいます。

負傷者、お体の不自由な方、お年寄り、お子様連れの方は▲▲の付近に、その他の方は◆◆の付近に集まり、係員の指示に従って、それぞれの場所で××人程度ずつのグループを作ってください。」

Attention please.

Now we are forming small groups.

Passengers need special assistance, including injured, disabled, and those accompanying children and elderly, go to ▲▲, other passengers go to ◆◆, and then make small groups of ×× persons in each category, following instruction of crew.

Thank you.

(注) グループ分けの誘導にあたっては、ロープを使って仕切ったり、複数色のリストバンドやカードを配布するといったやり方も考えられます。虎ロープ、カラーコーンを置いたり、一時的に床に整列用のテープを張ったりできるような準備があると、グループ分けを円滑かつ迅速にできます。

(4) 救命胴衣の配布・着用

<船長> 救命胴衣の着用を指示（タイミングは船長の判断）

<船員> 準備終了後、救命胴衣を配付し、着用方法説明

「これから救命胴衣を配付します。子供用・幼児用もあります。

係員が救命胴衣の着用方法を説明しますので、各自で救命胴衣を着用ください。

補助が必要な方はお知らせください。係員が着用状況の確認を行います。

それでは、船が到着するまでこの場でお待ちください。」

Attention Please.

Please have your life-jacket. There are life-jackets for children or infants.

Crew members are demonstrating how you put it on, so please wear your jacket by yourself.

Crew will assist you, when necessary.

Wait here for ship's arrival.

Thank you.

(注) 救命胴衣の着用場所・着用時期は、救命胴衣の収納場所、乗降口付近の広さ、移動経路の通行性等を踏まえて判断してください。

(注) 救命胴衣着用時には足元が見難くなりますので、着用後の移動が好ましくない場合には、船内の大部屋に一旦集合して退船方法を説明した後、オープンデッキに移動してから、手配船に移乗する前に救命胴衣を着用させることを考えても良いかもしれません。

(5) 手配船への移乗場所への誘導

<船長> 接舷指示

<船員> 接舷完了報告

<船長> 手配船への誘導開始指示

<船員> 誘導開始

「お客様にお知らせします。〇〇港に向かう船が到着しました。

負傷者、お体の不自由な方、お年寄りやお子様連れの方から乗船します。

グループごとに順番にご案内しますので、係員に指示されたグループは1列に並んで乗降口まで移動し、落ち着いて乗船して下さい。

個別に指示があるまでお待ちください。」

Attention please.

The ship to 〇〇 port has arrived.

Passengers need special assistance get on board first.

Crew gives instruction to each group to start moving, then please move in a line to the ship exit and get on with calm mind.

So wait for an instruction.

Thank you.

<船員> 旅客全員が救助船に移動したことを確認し、船長に報告

(参考) 移乗場所への誘導の際、個別指示に使用され得る文例

あなたたちの順番です It's your turn.

あの場所に移動してください Move to that place.

階段を上って/降りてください Go upstairs/downstairs.

足下に注意してください Watch your step.

出口は右/左側です Exit is right/left side.

まだ動かないでください Stay here, please.

次はあなたたちの順番です You are the next.

指示に従ってください Follow my instruction.

大丈夫です	(It's) alright.
心配ありません	(There's) nothing to worry about.
落ち着いてください	Calm down, please.
押さないでください	Don't push.
静かにしてください	Be quiet, please.
走らないでください	Don't run.
列を乱さないでください	Keep the line.

2. 緊急退船するケース

(船長は船橋で船内放送・外部との連絡、乗組員への指示を担当)

(1) 事故状況確認・旅客への状況説明

<船長> 状況確認を指示

<船員> 状況確認 (乗揚げ、衝突、火災、機関故障、推進器故障等)
負傷者確認・本船の旅客数を会社に確認
状況確認結果報告

<船長> 緊急退船の必要あり・救助船必要と判断

事故発生の緊急通報 (事故状況、緊急退船・救助船必要)

本船の現在位置及び事故状況を報告

(例)「本船、〇〇付近の浅瀬に乗揚げ、本船は船首部から浸水しています。

旅客〇〇名、船員△△名、計××名、これから総員退船します。

緊急の救助をお願いします。」

<船長> 止水等の応急処置を指示

非常招集場所に向かうよう指示

案内放送

「お客様にお知らせ致します。本船は浅瀬に乗揚げました (※)。

退船方法を説明しますので、落ち着いて、(〇デッキの) 非常招集場所にお集まりください。」

Attention please.

This ship is grounded (※) .

For evacuation information, please assemble at the muster station (on 〇deck) with calm mind.

Thank you.

(※) 旅客への説明中、事故状況の部分は以下のように変更できます。

機関故障	This ship has engine trouble
機関室火災	This ship has engine room fire
推進器損傷	This ship has propulsion trouble
衝突	This ship collides with another ship / shore / an object

(注) 案内放送では、ゆっくりとわかりやすい言葉を用い、乗客の不安をあおる言葉を避けるように心がけることが大切です。

(注) 非常招集場所 (muster station 又は assembly point) への案内のピクトグラムが無く、日本語が不自由な乗客にとって場所が分かりにくいときには、通行の邪魔にならないように配慮しつつ、矢印やピクトグラムをプラカードや張り紙等で掲示することが望ましい。

(2) 非常招集場所での説明

<船長> 退船方法の説明及び小人数グループ分けを指示

<船員> 退船方法の説明

「お客様にお知らせします。

本船は浅瀬へ乗揚げました。船体への浸水があり止水措置を行っていますが、船体の安定を長い時間は保てない可能性があります。

このため、救命浮器（救命いかだ）に移り、救助船の到着を待つことにします。

退船するために十分な時間がありますし、全員分の救命胴衣がありますので安心ください。

退船の手順を説明します。

負傷された方、お体の不自由な方、高齢者・お子様連れ等、特別な手助けが必要な方とその他の方に別れてもらい、それぞれの中で○名ずつ纏まってください。

その後、救命胴衣を着用した後、指示に従って、グループ毎に退船場所に移動します。

貴重品は身に付けていただきますが、手荷物はここに置いていって下さい。」

Attention please.

This ship was grounded. Measures for flooding is being taken, but the ship might not keep her stable situation for a long time.

Therefore, we shall evacuate and wait a rescue on life-floats (in liferafts).

Note that we have enough time and there are life-jackets for all.

I will explain how you evacuate the ships.

Passengers are divided into two categories, one is injured, passengers need special assistance and another is the rest. Then, please make small groups of ○ persons in each category.

Put on a life-jacket and wait for instruction to each group for moving.

Take your valuables with you but leave your baggage here.

Thank you.

(注) 少人数分けはパニック防止及び誘導の容易さを確保するために行うものです。移乗場所の広さや、誘導人員の数等を踏まえてグループのサイズを事前に決定しておいてください。

(注) 全員が迅速に退船することが重要ですので、待ち時間を少なくするため救命胴衣の着用が完了したグループから誘導するという方法もあり得ます。

(3) グループ分けの誘導

<船員> 小人数分け誘導

「これから小人数のグループを作ってもらいます。

負傷者、お体の不自由な方、お年寄り、お子様連れの方は▲▲の付近に、その他の方は◆◆の付近に集まり、係員の指示に従って、それぞれの場所で××人程度ずつのグループを作ってください。」

Attention please.

Now we are forming small groups.

Passengers need special assistance, including injured, disabled, and those accompanying children and elderly, go to ▲▲, other passengers go to ◆◆, and then make small groups of ×× persons in each category, following instruction of crew.

Thank you.

(注) グループ分けの誘導にあたっては、ロープを使って仕切ったり、複数色のリストバンドやカードを配布するといったやり方も考えられます。虎ロープ、カラーコーンを置いたり、一時的に床に整列用のテープを張ったりできるような準備があると、グループ分けを円滑かつ迅速にできます。

(4) 救命胴衣の配布・着用

<船長> 救命胴衣の着用を指示

<船員> 準備終了後、救命胴衣を配付し、着用方法説明

「これから救命胴衣を配付します。子供用・幼児用もあります。

係員が救命胴衣の着用方法を説明しますので、各自で救命胴衣を着用ください。

補助が必要な方はお知らせください。係員が着用状況の確認を行います。

それでは、船が到着するまでこの場でお待ちください。」

Attention Please.

Please have your life-jacket. There are life-jackets for children or infants.

Crew members are demonstrating how you put it on, so please wear your jacket by yourself.

Crew will assist you, when necessary.

Wait here for ship's arrival.

Thank you.

(注) 救命胴衣の着用場所は、救命胴衣の収納場所、乗降口付近の広さ、移動経路の通行性等を踏まえて判断してください。

(5) 退船場所への誘導

<船長> 退船開始指示

<船員> 退船場所へ誘導

「負傷者、お体の不自由な方、お年寄り・お子様連れ方から退船場所に案内します。

グループごとに順番にご案内しますので、係員の指示されたグループは1列に並んで退船場所まで移動してください。

個別に指示があるまでお待ちください。

慌てないで係員の指示に従ってください。」

Attention please.

Passengers need special assistance will evacuate first.

Crew is instructing each group to start moving, then proceed to evacuation point in a line.

So wait for an instruction.

Thank you.

<退船場所にて>

「1名ずつ海中に避難し、投下した浮器まで移動して下さい。(シュータを滑り下りて、救命いかに乗り移ってください。)

慌てないで係員の指示に従ってください。」

Jump into the sea and swim to life-floats one by one. (Slide down the shooter and then transfer to the liferafts.)

Don't rush and follow my instruction.

<船員> 旅客全員が浮器まで到着(救命いかだへの移乗)を確認後、船長に報告

<船長> 船員に退船を指示

全員退船後、本船と浮器を結ぶロープ切断

(参考) 退船場所への誘導の際、個別指示に使用され得る文例

あなたたちの順番です	It's your turn.
あの場所に移動してください	Move to that place.
階段を上って/降りてください	Go upstairs/downstairs.
足下に注意してください	Watch your step.
出口は右/左側です	Exit is on your right/left.
まだ動かないでください	Stay here, please.
次はあなたたちの順番です	You are the next.
指示に従ってください	Follow my instruction.
大丈夫です	(It's) alright.
心配ありません	(There's) nothing to worry about.
落ち着いてください	Calm down, please.
押さないでください	Don't push.
静かにしてください	Be quiet, please.
走らないでください	Don't run.
列を乱さないでください	Keep the line.

【緊急放送文例】

緊急放送	Emergency Broadcast
事故発生	Accident occurrence
沈没の恐れはありません	There is no danger of sinking.
沈没の恐れがあります	There is a danger of sinking.
救助を要請中です	We are requesting a rescue.
落ち着いて下さい	Please calm down.
慌てないで下さい	Please don't panic.
すべての乗客に救命胴衣を配ります	We will distribute life jackets to all passengers. (手渡し以外も含む) We will hand out life jackets to all passengers. (手渡すイメージ)
まず私が救命胴衣を着用します	First I wear a life jacket.
私と同様に救命胴衣を着用して下さい	Please wear a life jacket as me.(私のように着て下さい)
緊急出口に案内します	I will guide you to the emergency exit.
救助船に乗船します	Get on a rescue boat.
貴重品は身につけ、 手荷物は船に残して下さい	Please wear valuables and leave baggages on the ship.
避難します	Evacuate from the ship.

3. 小型船（船長1名、船員1名）で緊急退船するケース

- 【想定】
- ・乗客は、客室（船内に1室）もしくは船尾甲板（暴露）にいる。
 - ・船長は船橋で船内放送・外部連絡、船員はそれ以外を担当する。
 - ・外国語は得意でないため、簡易な日本語及び英語で誘導を行う。

(1) 事故状況確認・旅客への状況説明

<船長> 状況確認を指示

<船員> 事故状況確認（浸水、火災等）

旅客数・負傷状況確認

事故状況及び旅客数を船長に報告

<船長> 緊急退船の必要あり・救助必要と判断

海保及び会社へ事故発生 of 緊急通報（本船位置、事故状況、緊急退船、救助必要）

（例）「本船、〇〇付近で乗揚げ、船首部から浸水しています。

旅客〇〇名、船員△△名、計××名、これから総員退船します。

緊急の救助をお願いします。」

<船長> 案内放送

「（客室に集まってください。）【暴露甲板上にも席がある船などで必要に応じて】

お知らせします。

事故が発生しました。（火災が発生しました。）

船から避難する必要があります。

[Please come inside the cabin.] 【暴露甲板上にも席がある船などで必要に応じて】

Attention please.

An accident occurs. [A fire has broken out.]

We are going to evacuate from the ship.

(2) 救命胴衣の配布・着用

<船長> 救命胴衣の配付・着用について放送

<船員> 救命胴衣を配付し、着用方法をデモ

「お知らせします。

救命胴衣を受け取って、我々の実演に従って、着用してください。」

Attention please.

Please collect your life-jacket and wear it following our demonstration.

(3) 退船場所への誘導

<船長> 退船開始指示

<船員> 退船場所へ誘導

「お知らせします。

係員が避難地点にお連れします。

そこで、海に飛び込む指示があるまで、お待ちください。

補助が必要な乗客から、移動します。」

Attention please.

Crew takes you to the evacuation point.

There, please wait an instruction to jump in the water.

Passengers need special assistance should go first.

<船尾甲板にて>

「あなたの番です。

海へ飛び込んで、船から離れてください。」

It's your turn!

Please jump in and move away from the shipside.

<船員> 旅客全員が飛び込み後、船長に報告

<船長> 船員に退船を指示

避難誘導訓練

1. 訓練の目的

避難誘導マニュアルの作成に加え、手順に基づいて、普段から様々なシナリオの下での避難誘導訓練等を実施することで、個々の事態対処能力の向上を図ることが重要です。

マニュアルに定めのない課題を発見し、これをマニュアルに反映することで、更に実践的なものに改善していくことがとても大切です。

地元自治体、関係機関等の訓練に参加することも重要です。

2. 訓練の項目

火災・浸水・衝突・座礁等の事故発生を想定し、事故発生後の対応について、各社の避難誘導マニュアルに沿って、避難誘導を行います。

実船訓練で行うか、机上訓練で行うか、どの項目を訓練するかは、各社の事情にあわせて選択いただくこととなりますが、毎年1回程度は訓練を行い、5年程度で、全項目網羅できるよう、計画することが望まれます。

(1) 事故速報

避難誘導訓練に限ったことではありませんが、事故発生時に、関係者に事故発生を一報し、以後継続的に状況を報告することは、事故対応の原則です。

避難誘導訓練にあたっては、事故速報の手順を入れることが望まれます。

(2) 船内放送

緊急時の船内放送については、普段と異なる内容を放送することになります。どのような内容を伝えるか、分かりやすく簡潔に伝えるにはどうすればいいか、といったことについて、訓練を通して改善・習熟していくことが重要です。

(3) 非常招集・船内誘導

繁忙期には、臨時に立席により旅客定員を増やして運航する船も多いと思います。そうした船では、非常招集場所のスペース、救命胴衣の収納場所等を考慮して、どこに何人ずつ集合させ、救命胴衣をどこで着せて、乗込場所に何人ずつ誘導するか、といったことを実際に訓練していただく必要があります。

人数が増えることによる影響は、想定していたこと以外にも様々あるかもしれません。訓練によりそうした想定外をなくしていくことが重要です。

(4) 障害者・外国人等対応

歩行にあたって補助が必要な障害者・老人、救命胴衣の着用にあたって補助が必要な子供、日本語による意思疎通が困難な外国人などについては、別途配慮が必要となります。

こうした配慮は経験が少ないとうまく実施するのは難しいため、訓練により経験を積むことが重要です。

(5) 救命胴衣・救命設備

乗客に、救命胴衣・救命設備の使い方を、口頭や実演等により分かりやすく説明することも、練習をしておくことが望まれます。

さいごに

内航旅客船では外国語に堪能な船員が必ずしも乗務していないことから、外国人観光客が多く乗船する場合には避難誘導を日本語のみならず英語（可能であれば、想定される観光客の言語にあわせて、中国語、韓国語等を追加）でも行うことが必要になります。このためには準備が必要になりますが、その一助となるよう参考の手引きを作成しました。

今後も自動翻訳の精度が飛躍的に向上する等の状況変化が生じることが見込まれますので、参考の手引きも継続的に見直していくことが望まれます。

平成 31 年 4 月
四国運輸局海上安全環境部